

活動報告書

報告者氏名： 萩谷 晃子

所属： 神奈川県立相模原養護学校

記録日： 2014 年 2 月 20 日

【対象児(群)の情報】

- ・学年 小学部 6 年生の男児
- ・障害名 知的障害を伴う自閉症
- ・障害と困難の内容
 - ・簡単な二語文で話すことができ、自発的に会話を求めてくるが、内容を正確に伝えたり、自分の気持ちを表現したりすることが苦手である。
 - ・相手が別の人と話していても、自分の言いたいことを話しかけることがある。
 - ・気持ちが安定している時ならば、日常的な内容の指示を理解できる。
 - ・友達との関わり方が理解しづらい面もあるが、友達と関わりを持ちたい気持ちは強い。
 - ・ひらがな、カタカナを使って単語を読み書きすることができる。
 - ・小1程度の漢字が読み書きできる。
 - ・短い文章の読み方は正確ではないが、おおよその内容は理解できる。

【活動目的】

- ・当初のねらい
 - ・タブレットの操作に慣れる(教員も児童も)。
 - ・タブレットを介したやりとりの中で、適切な言葉での関わり方を学ぶ。
 - ・タブレットを介したやりとりをコミュニケーション手段のひとつにしていく。
- ・実施期間 平成 25 年 4 月～2 月
- ・実施者 萩谷晃子 小6担任 3 名
- ・実施者と対象児の関係 小学部長(本児 4 年次の担任)と現 6 年担任 3 名

【活動内容と対象児(群)の変化】

- ・対象児(群)の事前の状況

クラスの友達に握手を求めたり、名前を書いたメモを渡したりして関わりをもとうとする。高学年になり年々落ち着いてきてはいるが、話しかけられた内容や声の大きさ、身体への接触などで興奮しやすい一面があり、やりとりするまでにはいたらない。話す内容や伝えたい言葉をうまくまとめることができないため、大人に話しかけるものの、何の話かを大人が読み取ることが難しい。その結果大人も返事が返せないことが多くなるため会話が続かないことも多い。昨年(年2～3回)の近隣の小学校との交流時にはやや緊張する様子がみられるものの、教員の促しに応じて握手をしたり、あいさつをしたりすることができた。活動後には昇降口まで見送りに行き、なごりおしそうな様子をみせていた。
- ・活動の具体的内容
(1 学期)
 - タブレットの操作に慣れる。

以前から取り組んでいた時計学習にタブレットで取り組んだ。アプリ<TELLING TIME>利用。週 3 回ある『ことば・かず』の授業で担任と行った。

○<iMovie>を使い交流先の小学校にビデオレターを送る。

校内を案内する活動の際に本児が案内係をつとめることにした。ビデオレターでは「ぼくが案内します」というカードを持ち、自分の名前などを言うビデオをとった。そのあと教員がビデオに名前の文字も入れ、見やすいように短いものに編集をし、交流先の小学校にタブレットで渡しそのまま見てもらった。

(2 学期)

○教員とメールのやりとりをする。

本字が入力しやすいメールアプリ『こどもメール』を使用し、教員とやりとりしながら伝えたいことを単語や文にして、メールにうつことやメールを送ったり見たりする手順を繰り返し学習した。

○タブレットで写真を撮る。

伝えたいことを明確にするために、自分で写真を撮って言葉の説明をつけることを『Albums』を使用し楽しみながら学習した。

○言葉の表出(文字、音声)を増やす

『TA シンボル L』を使用し、絵カードを自分で選び、単語を文字入力したり自分で録音したりしてカテゴリーに分類した。

・対象児(群)の事後の変化

(1 学期)

児童・教員ともにタブレット操作に慣れることと、タブレットをどう使用していくか、どのようなアプリで指導していくかを考える期間であった。<TELLING TIME>を使用した時計学習では長針をまわして時刻をあわせることを楽しみながら学習し、タブレットに親しめた。ビデオレターでは自然な児童の様子をみてもらえたこと、交流前に名前を覚えてもらえたことにより、交流校の児童が本児に声をかけてくれることが増え、本児にとっても友達とやりとりをする安心感にもつながった。

(2 学期)

- ・ジブリの映画や仮面ライダーなどの興味関心に偏りがあるが、絵カードや写真も楽しめるようになった。メールに添付して送った写真を繰り返しながめたり、拡大縮小を繰り返して楽しむ様子が多くみられ、その写真を見ながら教員と多く会話するようになった。
- ・写真を送ってもらいたくて、ほしい写真を伝えるために言葉を考えてメールをうつ様子がみられた。また自分からメールをうつようにもなった。
- ・タブレットを介しながら教員とやりとりすることで、本児が何の話をしているかが大人にも理解ができるようになり、会話が長く続くようになった。
- ・タブレットの操作が分からない時に教員を呼んで言葉で聞くようになり、意思表示を言葉で示してから行動する場面がでてきた。タブレットを使える時間を伝えるようにすると、その時間まで落ち着いて待てることも増えた。
- ・図画工作が好きで何かをそこにあるもので作り出すことがあるが、メールのやりとりから、何を想像して作っているのかが教員にもわかり、そこから会話を増やすことができた。
- ・伝える手段を増やしたことで、途中で会話をあきらめることなく、また直接的な行動に出ることもなく、落ち着いて考え言葉にしようとする場面が増えた。
- ・文字の変換機能を使うことで、ひらがな、カタカナ、漢字を使い分けできるようになった。

・・・担任から・・・

- 自分から言葉で表現することが多くなりました。今までは自分のものを取られて嫌な時は、言葉で伝えられず我慢していた時もありました。タブレットを使用してメールのやりとりや、「タブレット貸して」「ありがとう」といったや

りとりを行ったことで、自分のしたいこと、欲しいことなど言葉にすることが多くなりました。また自分のこと(昨日のことや朝のことなど)を話すときに、以前はこちらがわからないこと(「たまたまみた?」「ジブリ白雪姫」)など言っていました。タブレットを使用。してから「今朝起きてトイレでうんちした。下痢気味だった」と文章にして話をしてくれるようになりました。楽しかったこと、嫌だったことなど話してくれる彼はとても成長したと思います。様々な人との会話も楽しむようになりコミュニケーションの幅が広がりました。

- 本児が「～の画像ください」とメールを送り、報告者から画像がきたときに嬉しそうにしており、登校時に「メールきてるかな?」と楽しみにしている様子が見られる。その結果、苦手な朝に楽しみがあることでスッキリした顔で登校できている。また要求を言葉で伝えることが増えた。
- コミュニケーション能力についてはかなり進展がみられたと感じています。物を借りる時の言葉使いの指導が他の場面で生かされています。また自分で見ている映像を教員に見て欲しくて声をかけてくることも多くなり、感動を共有したい気持ちも伝わってきました。休み時間に使用できるという安心感からか、途中でやめて授業にうつるなどの気持ちの切り替えも長期間の使用によってスムーズになってきた。新しいアプリに対して、はじめは教員の話聞きながら操作していたがすぐに慣れ、新たな操作法を探し出し楽しむ姿が見られた。いろいろな発見を通してタブレット操作が上達していった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ☆本児にとってメールでのやりとりは、ゆったりとした時間の中で人とやりとりする楽しさを味わうことができる。
- ☆自分の伝えたいことを視覚で確かめながら文字にすることで言葉の表出が増える。
- ☆言葉のカテゴリー分けやメールで言葉を残すことで、本児にとってその言葉が何を意味するのかに周囲が気づききっかけになる。

・エビデンス(具体的数値など)

○メールを使用したアニメの写真のやりとり

写真をもらおうと、メールの受信や送信の方法を覚え報告者に送ってくれるようになった。本文を打つまでにはいたっておらず、表題のみの送信ではあるが、興味を持ってくれ、促しがなくても自分から送ってくれることもあった。

〈本児から届いたメール例〉

- ・ふしぎのくにぬろうよ ・コクリコ坂から ・たまたま ・仮面ライダーガイム ・フックブックロー
- ・キッチン戦隊クックルン ・あんちゃん ・みなみのしまにあんちゃん ・風立ちぬ
- ・あんちゃんおはようゲゲゲのきたろう ・翼の勇者たちがぞうください ・スナック弾金澤種人
- ・ワンニャン時空伝 ・ふしぎ風使い ・うんこの奇跡の島 ・白雪姫モリ ・シータのうんこ

〈報告者から返信したメール〉

届いた内容をネット検索し、このことかと思われる写真を入手し、数枚ずつ送った。

→本児は送られてきた写真を何度もみたり、大きさを変えたりして楽しんでた。その写真をみながら担任と会話をするが増えた。(以前はビデオや本を見ていたが、そのセリフを言っていることが多く、会話にはなりにくかった。)送ってくるメールの内容の多くは家庭との連絡帳での話をあわせて考えると、家庭で最近みているテレビやビデオのことだった。そのなかの場面の一部であることも多く、ネット検索をかけてやっとわかることもあった。タブレットを使用する前は突然話しかけられてもその言葉だけでは内容がわからず、そこで会話が途切れてしまうことも多かった。メールで会話するようになり、言葉が

残ることで会話への手がかりをつかめた。また内容を調べて返答する時間も、メールならば間隔もあきすぎないため、本児とのやりとりを継続することができた。また図工が好きで、身のまわりにあるトイレットペーパーやガムテープなどを使って何かを作っていたり、自分の体に巻き付けたりして過ごすことも多い。何を作っているのかよくわからず、また興奮して何かになりきっている様子はあるのだがこちらが理解できなかった。メールの言葉から推測して家庭で見えてきたテレビやDVDのキャラクターであることにも気づけた。

○自分で描いた絵や自分で撮った写真を本児が送信

写真が送信できれば、身近な出来事も伝えられるかと考え、写真機能の使い方や送信の仕方を練習した。自分の活動の写真をとるまでにはまだ到っていないが、自分が描いた絵や作った物、気に入っている物を写真に撮って送信できるようになった。

〈本児から届いた写真メール例〉

・仮面ライダーバナナ



*自分で描いた絵

・たまたま



*自分で作ったてるてるぼうず。頭のところにた、ま、た、ま と書いています。

・コーヒー



*毎朝送ってくれる母が買ってくれて大事に持ってきます。

○シンボルで言葉の学習

語彙を増やすこと、言葉の表出を増やすことを目的に『TAシンボルL』を利用し取り組んだ。絵カード表から好きな絵を自分で選んで入力し、その名称をゆっくり文字で打ち込んだ。漢字変換機能も使い、候補から漢字も選んで入力していた。その後録音機能を使って自分で名称を読み上げ、絵カードをタッチして再生して楽しんでいた。絵カードをカテゴリーに分けることも覚え、行うようになった。

カテゴリー	本児が入力した言葉
人	お風呂、ポテト、チュウシャ、信号機、赤ちゃん、
気持ち	ハンバーガー、レーダー、おんせん、オークション、アクマ、天使、うんち、泣く
動き	うんちくん、テレビ、777、トコヤ、口、耳、鼻、目
スポーツ・娯楽	ファイヤー、えのぐ、マヨネーズ、ばつ、まる、タコ
乗り物・場所	ゆうびん、サボテン、CD、女性(マーク)、男性(マーク)、おまわりさん
食べ物・飲み物	ビデオ、宇宙人、サンタさん、おぼけ、ダンゴが食べたい、ビール、ケーキ、お肉
生き物・自然	お母さん、お父さん、あたし、ぼく、たまごのから、こうじのおじさん、おばあちゃん、おじいちゃん

→選んだ絵カードから本児の興味や生活がかいま見えた。『人』の 카테고리からはその物よりもその行動をしている人をイメージしていることが、読み上げる言葉のイントネーションからも伺えた。『気持ち』はそのものにとっても興味があり、それを見た自分の気持ちを、『動き』からは自分の行っている動作をイメージしている。『スポーツ・娯楽』『乗り物・場所』は本児の生活経験の中から印象に残っている物、よく行くところなどをあげているかと思われる。『食べ物・飲み物』はクリスマスや夏祭りなどを思い出してここに入れたと思われる項目がある。

このアプリはコミュニケーションの道具ではあるが、本児にとっては言葉の学習として使うことができ、また音声での表出を促すことができた。絵カードを自分でカテゴリーに分けることで、教員にとっても本児が何を考え、何を感じてその言葉を表出しているかを伺うことができた。今後は絵カードだけでなく、写真を挿入しておくことで動詞や形容詞の表出を促したり、二語文の練習ができると考えている。